

〔倭訓栞中編四〕かみかき 倭名鈔に、櫛鬢板をよめり、今搔板といふ物成べし、元服にも用う、鬢板も同じ。

〔類聚名物考調度十〕筭 かうがい かみかき

かみかきを音をかよはしてかうがいと云は、ミをウと云ひ、キをイといふなり、髮搔にて、頭髮のうちのかゆき時にかくものなり、これを後には首の飾りにせしものなり、されば男女ともに用うることなり、

〔和漢三才圖會容飾具二十五〕搔枝 扞子 俗云加字加伊

詩魏風云、佩其象搔、女子著搔於首、男子佩之、蓋搔枝整髮釵也、

三才圖會云、搔所以摘髮、以象骨爲之、若今之篋兒、古今註云、秦穆公以象牙爲之、敬王以玳瑁爲之、始皇金銀作鳳頭、以玳瑁爲脚、號曰鳳釵、

〔俚言集覽加〕髮搔カウガイ 筭

筭は刀の具増 古へは髮を搔くに用う、後世には婦人裝飾の品となる、又刀の鞘中に挿むものをいふ、

女の筭は、三河及遠州にてほせと云、

筭沿革

〔歷世女裝考二〕神代の髮の飾 筭

筭は本字カウガイ 筭なり、御國にて古書に髮搔とも書たれば、此物の本用は、今の毛筋立の如くにつかひ、あるひは髮の内の痒きを搔物としたるなり、

筭を髮の飾に挿はじめたる起原

元祿中頃にいたり、筭カウガイ 鬢といふ髮の風、京より起り、諸國にうつれり、其結ぶりは、筭を髮の根もとにさし、これに髮を巻つけて状カウガイ をなすなり、○註 筭は髮を理物ツクヨ なるを、始て髮に刺物になりしは、